

KAS

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
相模原市中央区田名7236-3
発行責任者 政野 光廣
042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



地域交流バザーへの
たくさんのご来場

誠にありがとうございました



【2012年 夏号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センター便り	P 3
◇特集「地域交流バザー」	P 4・5	◇自閉症について～新しい利用者が入りました!!～	P 6
◇ケアホーム便り・ヘルパー便り	P 7	◇後援会	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 910-1 コーポ野村 6-109
毎月15日発行 購読料1部 50円

支援の客体から権利の主体へ

現行の障害者自立支援法に代わる法律として、政府が今国会に提出していた障害者総合支援法(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律)案が6月20日、参院本会議で民主、自民、公明などの賛成多数で可決、成立しました。来年4月には施行される予定です。

障害者総合支援法には

- ① 制度対象者をさらに拡大し難病の人も対象にする
- ② 重度訪問介護サービスの対象を肢体不自由に限定せず、知的障害や精神障害、発達障害も含めて拡大する
- ③ グループホームとケアホームをグループホームに一本化する

など新たな施策も盛り込まれましたが、内閣府の障がい者制度改革推進会議総合福祉部会が新法制定に向けて昨年8月にとりまとめた骨格提言(障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言)は、ほとんど採り入れられませんでした。

そもそも2009年の政権交代に際し、時の長妻厚生労働大臣は【私たち抜きに私たちのことを決めないでほしい!】と主張し運動を続けてきた、一万を超える障害当事者の方たちを前に「障害者の尊厳を傷つける自立支援法を廃止して、障害当事者の皆さんの声を反映させた新法を作る」と明言し、これを受ける形で、障害当事者や家族、支援者等多くの国民の期待の下に障がい者制度改革の議論がスタートしたはずでした。総合福祉部会において、障害者自立支援法の反省点や問題点を含め、障害当事者や関係者が立場の違いを超えて幅広く意見を交わし、とりまとめられたのが前述した骨格提言です。本来なら、この提言を最大限に尊重し、それが反映された新法の制定を行うのが政治の責任だと思います。ところが、このたび成立した障害者総合支援法は障害者自立支援法の抜本的改正にはならず、結局は自立支援法の枠組みに沿い、法律の中身は変えず名称変更のみにとどまりました。政権交代時に繰り返し声高に掲げていた「政治主導」は一体どこに消え去ったのでしょうか?制度改革には期待していただけに残念な思いであります。

それでも、この総合支援法に一点の光明を見出すとすれば、『指定障害福祉サービス事業者等の責務』として「障害者等の意思決定の支援に配慮するとともに、常に障害者等の立場に立って支援を行うように努めなければならないものとする。」との文言が明記されたことでしょうか。知的障害者や発達障害者を念頭に置いた「意思決定の支援」という概念が、私たち支援者にとって大きな意味を持つようになってゆくものと思います。それは、私たちが支援している知的障害を伴う自閉症の人たちが、自らの意思決定に基づき生活を組み立てるといった経験が乏しく、私たちの支援もその点ではまだまだ不十分であるからです。今後は、私たち支援者が姿勢を問われ、意識の変革を迫られてゆくのではないのでしょうか。

ところで、先日、関東地区知的障害者福祉協会の研究大会に参加する機会を得ました。その大会プログラムに「私の心が壊れるとき～当事者が語る本当の支援ニーズとは～」とのテーマでシンポジウムがあり、自閉症、知的障害の当事者3名がシンポジストをされていました。その中のお一人で、臨床薬学博士の肩書を持つ高機能自閉症の当事者である片岡聡氏の言葉が強く印象に残りましたので、ごく一部ですが紹介します。

【支援者へのメッセージとして】「支援者側の価値観でその人を見ないでほしい!自閉症のまま、社会性のないまま幸せになりたい!二級健常者にはなりたくない!いろいろ求められると自閉性が削がれていやだ!あまり深刻な顔をしないで支援してほしい!楽しくユルユルとした支援をしてほしい!」云々と話されました。私は支援者としてのこれまでの自分を振り返り、内心ドキリとしながら彼の言葉を聴いていました。私自身の意識変革もまだまだこれからと認識した次第です。

障害者の存在がサービスや支援の客体から権利の主体へ、との流れは歴史的必然として認識し、「意思決定の支援」について理解を深め、よりよい実践につながるよう努めたいと存じます。

今後ともよろしくご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

社福)風の谷 中島博幸

「相模原自閉症支援センター便り」

いち早く撤回されましたが、大阪市で「家庭教育支援条例」という条例案が提出されました。内容はご存知の方も多いと思いますが、その条例案の中では、“保護者に保育士体験”とか“親を育てる、親学”といったものや、科学的？な“伝統的な子育て”が発達障害の予防・防止につながるといった内容が含まれていました。ですから、発達障害の子どもは「予防に失敗された存在」になってしまい、子育て、親という存在に障害の原因を求めたことに大きな問題がありました。モンスターペアレントの存在や虐待による愛着形成の不足が発達障害に似た症状を引き起こす、といった研究発表も背景にある様子です。

昨年6月に成立した障害者虐待防止法が、今年の10月には施行されます。さらには、3月16日に、障がい者制度改革推進会議差別禁止部会から「障害を理由とする差別の禁止に関する法制の制定に向けて～論点の中間的な整理～」が発表されています。一見正しく見えることの中に、虐待や差別が潜んでいないか、しっかりと見極めて支援の本質にしていきます。障害の有無に関係なく、人間としてすべての人が、同じスタートラインに立っている、ということが一番に考え、捉えて行くことで自分たちの支援を見つめ直したいです。

さて、相模原自閉症支援センターでは、今年度も「発達障害者日中活動支援プログラム研究事業」を継続することとなりました。昨年度は、多くの支えの中、何とかスタート出来たところですが、一名の利用者が新たな日中活動の場として、安定して活動してくださいました。特に場所に対しての意味づけと、仕事の内容に対しての組織化、動機付けに配慮した設定が出来たことが良かったようです。更に、さまざまな刺激が安定した日中活動の場への妨げになることも多いので、刺激を統制する空間の構造化に対しての配慮も効果があったのだと感じています。家庭においても、通所以前より精神的に安定できていて、お母様からは、特に本人が不安定になったときの回復が早くなった、との感想も頂きました。以前から利用していた利用者も、受注作業に特化した場所を設定することで、通所に対しての動機付けのひとつになるといった副産物も得られました。ほとんどの相談案件が陽光園相談室からの引き継ぎであったことから、今年度は、更に連携しながら一緒に支えていく必要があると考えています。

「自閉症らしさを削がれたくない」これは、自閉症スペクトラム障害当事者の言葉だそうです。6月に軽井沢で開催された、第43回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会シンポジウムでの発言を、施設長から職員会議の場で職員全体に伝えられました。“らしさを削ぐ”まさしく、虐待であり差別であると思います。どれだけ、職員や社会の枠組みに当てはめ、本人を変えようとしてきたかを考えさせられる一言でした。やまびこ工房に通所して下さっている利用者の中には、言葉でこの想いを伝えることのできない人も多いです。この想いを実現していくためにも、自閉症らしさを理解して、自閉症らしさを支えていきたいと思っています。そこで職員に必要である、「自閉症らしさの理解」のために、もっとも重要なものだと考えている、神奈川県自閉症児者親の会の主催する「自閉症療育者のためのトレーニングセミナー」に、今年度も職員を派遣できることとなりました。受け入れてくださった主催者、そしていつも近くで支えて下さっている相模原自閉症児者親の会「やまびこ会」の皆様にご感謝いたします。やまびこ会においては、今年度も、主催されている篁一誠先生の勉強会(Takamura's2000)にも参加させていただいています。良質な支援こそが恩返しだと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。(西村)



今年の地域交流バザーも皆さん気合入っています！
この団結力で毎年盛り上げています！



今年は新人二人で担当させていただきました
“焼きそば”。少し味が薄いとの噂がありますが、
きっと気のせいでしょう…
来年はリベンジします！！



2012地域交流バザー

今回の地域交流バザーは事前の天気予報では雨とのことでしたが、バザー開催中は見事に晴れ、良い天気にも恵まれました。これも普段の皆様の良い行いのおかげでしょうか？おかげさまで今年もたくさんの方にご来場いただくことができました。

今年は職員も増え、賑やかなバザーとなりました。バザー開始直後から子どもたちが駆け込み、カブトムシの幼虫はあっという間に完売！向かいの花コーナーも充実したラインアップとなりました。人気の屋台も手作り味噌の味噌田楽、特製お揚げと揚げ玉のうどん、大人気の焼きそばなど、どの店も大賑わいでした。喫茶コーナーでは毎年恒例のドウ・シルフィードによるクラリネットの演奏会があり、座席が足りなくなるほどの盛況ぶりでした。自主製作品コーナーも年々品数が増えており、今年は刺繍の作品が人気を集めていました。

事前準備から後片付けまで、地域の皆様、ボランティアの皆様には本当にお世話になりました。やまびこ工房と地域がより深い関わりを持てるよう、より一層の努力をしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

入口近くで販売していた“焼き鳥”。おいそうなタレの匂いにつられて会場に足を運ばれた方もいらっしゃったのではないのでしょうか。おいしかった～！！



手作りコーナーです。丁寧に気持ちを込めて作った物ばかりで、ついついまとめ買いをしたくなってしまうですね！



食堂にてお茶を楽しみながらクラリネットのやわらかく美しいメロディーに癒された方がたくさんいらっしゃいました。来年も期待大です！



たくさんの種類のお花が販売されていました。お花を目的に会場に足を運ばれた方も多くいらっしゃいました。

入口すぐ横のボーリングコーナー。お子様から大人の方まで多くの方々が楽しまれていました。



キンキンに冷えたジュースとビール。皆様のパワーで天気も良好！手を真っ赤にしながらも頑張って販売していました。



自閉症について ～新しい利用者が入りました！！～

今年はやまびこ工房始まって以来となる5名の養護学校卒業の新利用者を迎えることが出来ました。それぞれ皆個性的な方たちで、各担当職員が毎日試行錯誤する日々が続いています。3ヶ月が経ち、漸く新利用者の特徴や性格などが少しずつ分かり始めていますが、「安定した日中活動」にはまだまだ遠い道のりとなりそうです。

今回はそんな個性的な新利用者5名の通所開始から現在までの支援の取り組みについて、それぞれ簡単ですが報告させて頂きたいと思います。

Aさんは当初、作業中も休憩中も“特定の気になる場所”のことで頭が一杯といった様子でイライラして過ごしていました。そこでその気になる場所のカードを作り、1日1回「どうぞ。行って良いですよ。」と保障した所、満足感や安心感をえたのか、落ち着いて過ごせる時間が徐々に増えてきました。今では毎日その場所に行かなくても作業に集中でき、休憩時には絵を描くことを希望するなどAさんなりの過ごし方が見つかってきました。

Bさんは作業中の離席が目立ちました。周囲への関心の強さや姿勢を保持することが苦手であることなど理由は多く考えられますが、まずは意欲的に作業に取り組めるよう、食べるのが好きなBさんに、作業の評価としておやつを提供しました。現在も作業中に集中が途切れたり、周囲に関心が逸れたりして離席することはありますが、「おやつを食べて帰る」ことがBさんにとって目標になっている様子で、意欲的に作業に取り組むことが増えてきました。

Cさんは帰宅時、買い物や公園に寄って遊ぶことを楽しみにしているため、天気と帰る手段が気になります。しかし天気は予報通りでないことも多く、Cさんは常に見通しが立たないことへの不安感や緊張感を持って過ごしている様子です。特に雨の日は何度も帰宅手段を確認したり、電車やタクシー利用を希望し、親御さんや職員と熱心に交渉したりします。今後も、確認や交渉によって自分の気持ちに折り合いを付けて行動するCさんに寄り添いながら、リラックスできる時間を増やしていきたいです。

Dさんは「ごはん」と「帰る」ことがとても気になります。「まだごはんの時間にならないの?」、「帰る時間はまだなの?」と言いたそうに職員に「アッ」と話しかけてきます。当初は長いスケジュールを提示すると前倒しが強まってしまうのではないかと考え次の活動しか提示していませんでした。それでも確認が多くイライラする場面が多く見られたので、試しにスケジュールを午前と午後に分けて「ごはん」と「帰る」が最後に来る形で提示してみました。すると、不安そうになることが減り、その時間まで待てることが増えました。

Eさんは一月前に体験実習を済ませてから通所を開始しました。実習中の本人の様子を元に、視覚的に分かり易く一日の流れをスケジュールで提示しています。体力が有り余っているようなので『散歩』も加え、しっかり身体を動かせる時間を持ちました。アンパンマンが大好きで、職員に対してもアンパンマンの中のセリフでその時の心情を訴えてくるときが多いことが分かりました。それからは本人との会話の中にアンパンマンの中のキャラクターを交える様になりました。笑顔多く職員とコミュニケーションできる様になってきています。休憩時間に描く絵がその時の心情「楽しい」「怒っている」「イライラしている」を表現しているようです。今は、休憩から仕事への切り替えをどう本人のペースに合わせて無理なく行えるか? 試行錯誤中です。

ここで紹介させて頂いた5名を含め、やまびこ工房では現在51名の個性豊かな方々が活動しています。そしてその中で、自閉症という障害特性を理解すると共に、障害だけではなくその方の価値観や得意な事・苦手な事といった、人となりにスポットを当てて知っていくことが大切だと日々感じています。これからも試行錯誤を続け、その人らしい充実した日中活動が実現できるよう支援を続けていきたいです。(上条・鹿野・田中)



ケアホームナウシカ便り 其の参



前はケアホームナウシカでお手伝いをしていただいている方の紹介でしたが、今回は別の方の日常の楽しみを紹介したいと思います。

Aさんは(仮名)普段ですと1番最後にホームに帰ってきます。そして荷物を置くと真っ先に玄関の掃除をされます。皆の靴の底についてきた泥や石などで汚れた玄関を隅々まで丁寧に掃いて綺麗にして下さっています。掃除が終わると散歩を兼ねて買い物に行くのを Aさんは楽しみにされています。行き先はAさんのその日の気分によって決まります。一番近くの個人商店からファミリーマートやローソン等のコンビニエンスストア、ダイエーやマルエツなどのスーパーマーケット等、お気に入りのお店はたくさんあるのですが、お店で商品を探す姿はとても真剣です。そんなAさんは新商品や期間限定商品がお好きなようで目新しい物があると、つつい手を取ってしまうようで、大抵満足されているようですが、残念ながら期待通りの味ではないこともあるようです。そういった時は、翌日も同じ店に行かれ、別の商品を試されています。Aさんにとっては自分で選んだ商品をソファに座りながら召し上がることは大切な時間なのでしょう。

ちょっとした楽しみが暮らしに色を添えることになっていると思います。今後もこういった活動から暮らしの幅を広げるヒントを得ていきたいと考えています。(田辺)

ヘルパー便り 其の参



相模女子大学で、発達障害者の方の為の音楽療法サークルがあります。地元の大学で取り組まれている活動にどなたか参加できないものかと思っていたのです。そこに春よりやまびこ工房の一員になったAさんはよく歌を口ずさまれているのを見て、誘ってみようと思い立ったのです。ご家族の協力もあり、ヘルパーと一緒に参加することが出来ました。参加者は20名ほどで、年齢も小学生から成人まで、その中で自閉症者は2、3名だったのではないのでしょうか？そのように思ったのは周りの様子に合わせて、活動するのが苦手そうな方が2、3名だったからなのですが、実際のところはわかりません。

Aさんはやはり周囲の方や学生ボランティアの方に合わせるのには苦手のようでした。入室した時の全体的な騒がしさは自閉症者支援をしている者にとって、心配が先立つ状況でした。始まるまでの時間はなにをしていいのかわからず、Aさんは教室内の物を手にとってみたり、マジックを手を歩きまわったりされ、担当してくれた学生ボランティアさんもどうしていいかわからず困っているようでした。会が始まり、円になって椅子に座っているのはやはり難しく、皆と一緒に手拍子をしながら歌っているのに堅い表情で口も手も固まっているのを見て、合わなかったかなあ、とつい逃げ出そうかと思っていたのです。ただ活動が進むうちに歌を口ずさんだり、講師の方がとるリズムに合わせてすることが出来たり、歌詞を見ながら、初めて聞く歌もしっかり歌うことが出来ました。

発達障害と一言でいっても実際さまざま個性があって、同じ空間、同じ時間を過ごすのはとても難しいことかと思いますが、音楽を通じて貴重な時間を過ごすことが出来ました。本来なら音楽の時間の後は皆でお弁当を食べることになっていたのですが、さすがにその空間に居ることは出来ず、静かな場所で食事をしました。(薬師丸)



後援会のページ

風の谷後援会の皆様・やまびこ工房家族会の皆様そして職員の皆様、健やかな毎日をお過ごしと拝察いたします。

ジメジメとした梅雨空の毎日ですが、もう少しで夏本番となります。今年も猛暑の予報！！やはり心配事は節電です。東京電力は計画停電が無いと云っておりますが、本当でしょうか。

さて、4月6日に『風の谷後援会役員総会』が開催され後援会長として、引き続き2年目を務めることになりました。ご協力よろしくお願いいたします。

昨年度は、大震災の関係で色々と制約された年になりました。被災地はまだまだ復興とは名ばかりで、遅々として進んでいないように見えますが、皆様方はどう感じていらっしゃるでしょうか。

今年も家族会と職員の皆様の協力の下、後援会の一番の大イベントであります『地域交流バザー』が6月3日(日)に盛大に行われました。朝から天気が心配されましたが、皆さんの頑張りりと、バザーを楽しみに待っていただいている大勢の近隣の方々のおかげで、無事に終えることが出来ました。

後援会の役割は、『社会福祉法人風の谷』が行う各種事業がより一層発展するように支援することを目的としております。「地域交流バザー」「ブルーベリーの摘み取りとジャム作り」「毎月の資源回収」等々が主な活動ですが、これらも家族会の皆様や風の谷職員の皆様のご協力を得て実施しております。

今年度も皆様の絶大なるご支援をお願いいたします。

風の谷後援会会長 佐藤 辰男

【更新・個人】平成24年1月13日～平成24年6月21日

(相模原市)

石崎守、井上響子、井上進、荻原常寿、大久保敬二、小原マサエ、川合義正、川島和章、菊池みどり、小針徳枝、小松克明、篠崎繁雄、清水徹、鈴木秀美、鈴木フミ、高橋ユキ江、高田晋、高林清、谷口博恵、豊田幸男、永山明彦、芳賀道子、長谷川美好、辺見祐二、堀田脩司、政野大、政野光廣、三田二三夫、山口彰一、山崎テル代

(相模原市以外)

青山恵子、安藤紀子(横浜市) 田中ヒロ子、大久保秀俊(海老名市) 済田安司、済田順子(世田谷)
舟部光徳(町田市) 酒井艶子(川崎市) 中塚正彦、上条洋一(座間市) 浅羽昭子(横須賀市)
新井靖数、佐藤辰男(厚木市) 上城春子(福岡県) 山口豊春(北海道) (五十音順・敬称略)

【新規・個人】

安藤美由紀、縄島健一、原友作(相模原市) 久保伸司(座間市)

【ご寄付・ご協力】

加藤泰久、宮田加奈子 (五十音順・敬称略)

梅木千鶴子、亀井美佐子、小室かおり、鶴田純代、森美紀、(ドウ・シルフィード)

新宿自治会、新宿小学校、(有)伸和トラスト、ボランティアサークルのぞみ、依知の会

ワーカーズコープ・キュービック

他大勢のみなさまありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的としております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345